

粘土細工に就いて

宇都宮 多歌子

お話は大分むかしの事になりますが、目白の日本女子大學で、附屬豊明幼稚園を設立しよう云ふ計畫がもちあがりました時に、幼い子達の教育の中で最も重せられるのは粘土細工の教授であります。其當時は今から十九年前、明治三十六年あたりの事でありますから、未だ粘土細工が一般教育界に重んぜられてゐませんでした、又特に志を注いで研究しよう云ふ人もありませんでした。之を故女子大學長成瀬校長が早くも意を向けられて、どうにかして新設される幼稚園の爲に粘土細工教授を専心に擔任して呉れる人物が欲しいと仰せられて居りましたのでしたが、其折私が幼い時から粘土いぢりや陶器を焼いたりする事が好きなのを御存じでいらせられて、私に是非やつて貰ひたいと云ふ御志をもらされました。私はとてもこの重い任を受け持つ事が出来ないので、もどく好む道であり、又成瀬校長の御勧め熱心なので、とにかく御引き受け致しまし

た。そして豊明幼稚園がいよいよ設立されると云ふ一年前に、私は名古屋、愛知、京都、奈良等の陶器や美術品等の立派なものが製作される地方を、工場から工場へと、女工の間に交り、眞黒くなつて、實施研究をいたしました。今迄學理や素人として勉強してゐました粘土や陶器の術に磨きをかけ、豊明幼稚園の新校舎が建築なりますと直ぐ、教壇に立ち、幼い子達の相手として、創立以來今年まで十九年の間粘土を友にして參りました。私はどうかして後進の若い方々で粘土細工に興味を持ち、自分の心を捧げる方があつたらば、私の事業をゆづりたいと存じながら、十九年間もつとめて參りまして、今年やつと幼稚園の方を辭しました。粘土細工や陶器製造は私の一生の仕事でありますから、幼い子達に毎日教へ導く事をやめましても、これから私一個の自由研究を續けてまゐる積りで居ります。

さていよいよ粘土細工のお話に移りませう。子供

は水と土とさへあれば何もいりません、幼稚園に通ふ位の小さい子供達は、水と土とをいぢつてゐますと、一日中おとなしく嬉しがつて遊んでゐるのです。この子供の最も喜ぶ水と土とを二つかねたものが、粘土細工であります。それですから、いかに粘土細工が子供達に興味あるかは、粘土細工を教へた方々や、粘土細工をしてゐる子供の様を見た方々は、きつとおわらひになる事と思ひます。粘土細工のお道具としては、八寸四方位の板一枚、へら、五寸四方位のキャラコの布巾、竹のへら、金のへら等です。布巾にキャラコを選びますのは、サラン等は布の目が荒くて、粘土をぬぐふ時に布の目が粘土にうつつて、都合が悪うございますから、布の目の細かいキャラコを選びましたのです。これ等の道具を竝べますに就ても、竝べ方を一定して置きませんと、細工をする上に不便で、はかどらない外に、子供の心に整然とした氣分を將に仕事に取りかゝらうとする緊張さを破つてしまひますから、粘土細工の教授を有效ならしめやうとするならば、道具の竝べ方に最も注意しなければなりません。私は私自身で子供達各々の道具を、机の上にもちやんと位置を定めて竝べてやつ

て居りましたので、私が非常に忙しくつて、自分で手をおろす事が間に合はず、他の方に御願ひして道具を竝べさせますと、子供達は教室に這入つて來ると、「今日はお道具がお行儀が悪いわ」、「私のへらが左の方になつてますわ」等を、囁き合ふのを聞きます。そしてこんな風を始めから子供の心を亂し、感じ易い心に亂雑な道具を見せたりしますと、案の通りその時間に製作した細工は、いつもより出來榮えが悪いと云ふのです。それですから、粘土細工道具は位置を一定して、へらは右に、布巾はぬらして四角に正しくたゝんで左の端の所に、粘土は中央にと、粘土細工に對して何も知らない始めての授業の時から、立派な習慣をつけてやるやう、教師自身が道具の竝べ方に心しなければなりません。

粘土細工道具の竝べ方の大切な事はこの位にして置きますが、粘土で何をつくらせるか、即ち粘土細工の教材に就きましても、中々興味があるものであります。私が教へて居りました豊明幼稚園では、極めて自由な空氣が漂うて居まして、教授の事に就いては一切私共にまかせられてゐますので、粘土細工もこれこれの物をこの學期中に教授せねばならな

い等と云ふ規定もありませんでした。其の代り又私共が工夫を要することも多いので、元來好きな仕事で御座いますから、十九年といふ長い間、色々教材の研究を致してみました。第一に季節のものをさせます。季節のものとは、春先きであれば櫻の花の形を、夏の初めなれば菖蒲の花をと、その季節にあるものを教材として、粘土細工に作らせます。第二には時事のものをさせます。例へばマラソン競争が行はれる云ふ事があれば、マラソンをして走つてゐる子供の形を、又新しい軍艦が何日につくられたと云ふ事がありましたら、軍艦を粘土細工につくらせます。その時々には社會に起つた事件で、子供達に興味のあるものを選びます。第三には、自由なものもさせます。自由なものとは子供が勝手に作りたがるものをつくらせるのです。教壇に立つて、可愛い子供達の顔をみながら、「この前の日曜には皆さん何處に遊びに行きましたか？」と尋ねて御覽なさい。「先生僕は浅草に行きました」「先生、わたしは御姉様につられて上野の動物園を見にゆきました」と、問いを待ちかねてゐたやうに、あちらにもこちらにも、小さい口は開かれてがや／＼と答へることでせう。

その時、「動物園で何を見て來ましたか？」「虎をみました」「熊を見ました」。それでは、「あなたは虎を粘土でつくつてごらんなさい」「あなたの方は熊をつくつて先生に見せて下さい」と云ふやうに、何をくらくかと思ひわづらつてゐる子供があつたら、かうした問を出して、ヒントを與へてやるのもよろしい事です。さつさと自分でつくるものを定めて、細工に取りかゝつてゐる子供は、その熱心さを亂さぬ程度に於て、中々細工しようとする題が見つからぬ子供には、このやうにしてごらんなさい。子供は智慧をかしてよろこびます。第四には、型を與へて細工をさせます。犬の型、花の型、花瓶の型等を、前以て子供達に石膏でつくらせてしまつて置くのです。そして時々型を出してこちらから與へて、それに依りて粘土細工をさせる事もあります。型を與へますと、子供達は細工が容易に出来るものですから、樂なのを大層喜びます。けれども型度々細工をさせますと、模倣をする事を知らず／＼に覺え、尙悪い事には、模倣におさまらないで、型に捕はれてしまつて、子供達の尊い創意を失うてしまふ、といふ恐ろしい事になります。それ故、型は屢々與へぬや

うにし、たゞ寒い冬の日で子供達の小さな手がつめたくなつて中々思ふやうに動かぬ時とか、或ひは天候の具合でたらだらしてゐて、子供達の頭腦がすみやかに働かないやうな日には、型をやる事にしてゐました。第五には題を授けて細工をさせます。例へば幼稚園を卒業するといふ場合に、記念として幼稚園に残してゆく作品をつくらせる、その場合に、お皿を三十枚、同じ形と同じ模様につくりなさい、と子供達に命じて細工をさせます。

これは粘土細工を幼稚園で教授する場合での教材を一通りお話し申しましたのですが、小學校に於て粘土細工を教授する時には、もう一步を進めて、教材の範圍も増します。小學校では、國語と聯絡を取り、國定教科書の中にある「水の旅」と云ふお話の中に、雨の一雫が集つて小さい小川となり、小川集つて川となり、川は海に注ぐと云ふ面白いお話がありますが、その一節を取つて、樹木繁り合ふ、谷間に些かな小川の流れてゐる風景を粘土細工でつくりさせたり、又「長良川の鵜飼」と云ふのがやはり國定教科書にあります。その鵜を粘土細工につくりなさい。國語と聯絡を取る外に、圖畫と聯絡を取りまして、

三年生の圖畫の教科書に、赤い紅葉が書いてある繪があります。それを粘土細工の教材に利用して紅葉をつくらせ、赤い繪具で色取りをさせ、柱がけ等にこしらへますと、小學校の子供達は喜びます。

これは一言小學校の粘土細工に迄お話が流れ込んだのですが、また幼稚園にもどつて、如何に幼稚園の子供達が粘土細工が好きかをもう一度お話しさせて下さい。十九年も幼い子供達の教育にたづさはつて居りますれば、その間には中々つらい事もあります。又このつらい事が却つて自分をして、幼い子供達の教育にはなれ難くしたのかも知れません。毎春ごとに、家庭の暖い母親の手をはなれてはじめて群集生活の中につきはなされる、數十名のお子さん達をお迎へする中に、色々變つた性格のお子さんがある中で、私共は難義をいたします。他の子供達が元氣よく仲よく遊んでゐるのに、ひとりねちけた子供があまりまして、皆の中に出るのがいやだとか、或ひは先生がこわいからもう明日からは幼稚園に來ないとか、云ふ子供はよくあるものです。そんな時に、私の長い間の尊い經驗は、粘土細工に依つて、その子供の性質を柔らげ、幼稚園を愛し、先生が好きにな

り、お友達とも快活に遊ぶやうにすることが、どんなにたやすいかを教へました。みつこでめそよくしてゐる子供に、「さあ、この粘土で、先生がこれから、あなたのワンワンをこしらへて上げますよ。等と云つて子供の好きなやうな犬や馬をこしらへてやつて、「今日はこれをお母さんにお土産にもつていらつしやい」と二度頭をなでてかうやつてやりましてから、その次には「今日はあなたが御自分でこしらへてお母さんに持つていらつしやい、あなたにはおだんごがつかれますかしら。あなたはお団子が好きでせう」と云つて、自分でつくる事をそろゝと勧めます。さうして其の日には自分でつくつたのを家へ持たせて歸らせる、お母さんに褒められる、子供は粘土細工をするのを樂みに幼稚園に来てゐるうちに、次第／＼に幼稚園の空氣になれるやうになります。遊戯する事も、唱歌することもせずに、半年の間粘土細工ばかりしてゐた子供がありました。どうどう其の子供も粘土細工がなかだちとなつて、快活な性格の子供となりました。この一事を見て他は推して知るべきであります。

これ程子供の好む粘土細工の事ですから、教授す

る先生も子供と同じ純眞な心になつて、教授にあたらなければなりません。何事もさうでありませうが、粘土細工は技術ばかりでなく、精神をこめて致すと否とは、子供の興味を惹く上に、粘土の出来上りの上に、多大の影響がありますから、教師の態度の上には注意を一つ二つお話し致します。粘土細工を致します時には、慎重な態度で、而も熱心に、全心を傾注して、子供に興味を持たせるやうに努めます。先生がかゝる覺悟であれば、子供等にもきつと熱が湧いて來るものです。子供等が粘土をこしらへてゐる時には、絶えず見廻つて歩いて、子供の手におへない困難な箇所は、指導して手傳つてやるやうに致します。又粘土細工で最もむづかしい所は、粘土と粘土とのつきめで、例へば桶のやうなものをこしらへるとませう、そうすれば桶をさげて持つ所の取手が一番取れ易いのです。子供等はこんな所をただ一度つけたきりで、充分取れないものだと思つてゐますから、先生が自身で一々検査して見て、その取手の所をぎゆつとしつかりつけてやります。私はつぎめをつけてやる時、精神をこめて、神様にお祈りをして、つけてやると、決して取れないのを經驗で

知つてゐます。心で他の事を考へてゐては、如何に指先に力をこめてつぎめをついだとて、直ぐ後にはがれて来るものです。まことに粘土細工を子供等に教へ導くにはいつも神様にお祈りする積りでゐる、心の清らさと熱心さが大切であります。さてかうして出来上つた粘土細工には、裏の方に名々の姓名と組名とを書かせて、かげぼしにしてしまつて置きます。次の週には、この粘土細工の仕上げに取掛ります。キャラコの布巾をよい程度にぬらして、指の先にまきつけて、粘土細工を靜かに丁寧にごすりまして、形の悪い所や、表面の凸凹を直します。前に述べました通り、キャラコの布巾ですと、布目が細かうございますから、具合よくゆきます。又金のヘラを用ひて形の悪い所をけづる事もあります。これ等の仕事を仕上げと申して居ります。幼稚園では可成り上級になりましても仕上げ位までするのはちつと困難ですから、たゞ一定の形のものをつくつたご云ふにどゞめて置いても結構です。仕上げがすみますと、素焼をし、著色をし、施釉、即ち、うはぐすりをかけ、焼成即ち陶器の本焼のやうに最後の所までしてゆきます。この邊迄すれば、粘土細工の興味は

津々として離れ難くなりますが、焼成等に至りましては、既に玄人の域に入り、大きな釜を用意し、夏には地獄のやうな火の中に身體をひたし、冬日は高温から外界の低温度の空氣にふれる爲め、風引きを度々して、私のやうに物にこり過ぎから、體を害し、「釜病になつたんだ」等と笑はれますが、體をたしかに衰弱させます。然しこれは何十年と云ふ長い間のことで、私のやうに寢食を忘れて過度に物をする故に起つた事でありますから、決して御心配には及びません。殊に幼稚園、小學校に於ては、この程度まで行かず、粘土で物をこしらへる、ご云ふにすぎないのですから、ます／＼粘土細工の盛になるやう私は希望してやまないのでございます。

○
永く組曹の街に暮らした人が久方振りで歸朝して、神戸に入港するや、土壤をふみしめて、思はず喜びの聲をあげ、大地にキツスじたい」と出迎の人に挨拶したと聞きました。土にしたしむ心、ことに自然の中からぬけ出て来たばかりの幼児が、泥いたづらや、水いたづらをしたがるのは無理はないと思ひます。